

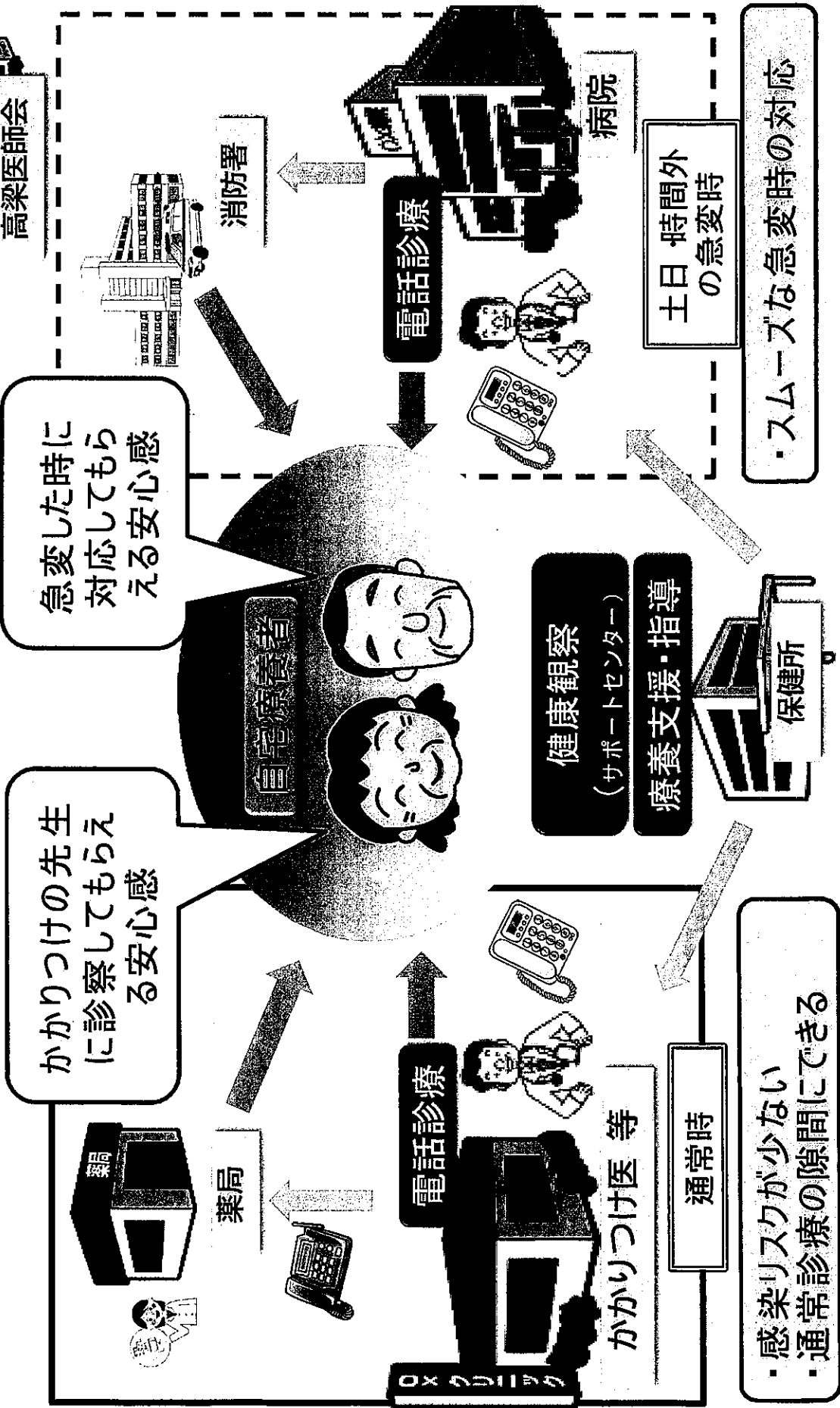
# 令和3年度 第2回高梁市医療計画検討委員会

## 参 考 資 料 集

(令和4年3月7日)



# 自宅療養者の医療提供体制(おうちで安心高梁方式)

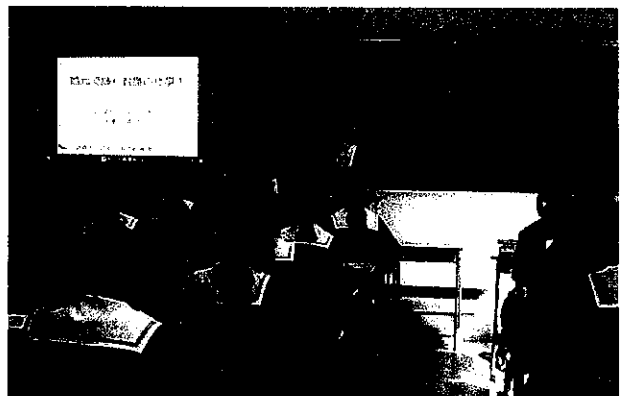


国の高梁市内の新型コロナウイルス感染症対策が、自宅療養者に対する迅速な対応を実現するために、高梁市内の医療機関と連携し、迅速な対応を実現している。

# 方谷学

中山間地高梁の医療（仲田医院 仲田先生）

地域でかがやく看護のシゴト（高梁中央病院 青木看護師）



ここがスゴイぜ！！高梁の地域医療（高梁高等学校2年次生）

## ここがスゴイぜ！！ 高梁の地域医療

### ● 大杉病院 ●

12科目の診療科をおよそ、救急告示病院の指定を受けています。特に回復期リハビリに力を入れて診療を行っています。今年2月から新たに介護医療院を開設しました。要介護・要介護の方のリハビリ療法が充実しています。

電話 (0866) 22-5155

### ● 高梁中央病院 ●

26科目の診療科をおよそ、内科と外科では、オンラインで診療と医食が出来ます。急性期から慢性期までの質の高い医療を提供し、他の医療機関との連携を密にして皆さんの医療を尊重しています。地域の災害拠点病院に指定され屋上にはヘリポートがあります。新たに介護医療院の増設も行いました。

電話 (0866) 22-3636

### ● たいようの丘ホスピタル ●

県の認知症医療センターの指定を受けている精神科の病院です。うつ病・神経症・統合失調症・認知症など様々な精神疾患や障がいに対応する治療を行います。外注治療としてのデイケアや訪問看護での継続サポートも行い、多様な医療を提供してくれます。

電話 (0866) 22-2217

### ● 成羽病院 ●

10科目の診療科をおよそ、回復期から慢性期までの幅広い疾患に対応して診療を行っています。自治体病院として、へき地医療、救急医療とともに地域包括ケアシステムの要として機能し、地域の皆さんに親しまれ、信頼される病院を目指し、医療の充実向上に努めています。

電話 (0866) 42-3111

所在地：高梁高等学校＜佐倉美波・小林由希・片山紀波＞

## ～高梁市の地域医療の取り組み～

市内4病院が連携して地域で働くキーマンサポート体制が実現！！

### 高梁市の地域医療が目標実現

基本方針 1：住民の医療需要が変化しても適切な医療が受けられること  
 基本方針 2：医療従事者が誇りを持って働ける、持続可能な地域医療  
 基本方針 3：子どもを産み育てやすいまちを目指した産産・子育てサポート体制の構築  
 基本方針 4：地域での自立した生活に寄り添う基盤の整備

18歳まで  
医療費無料

基本方針 1：①市内医療資源の最適配分に向けた医療機関等の連携強化  
 ②医療提供体制の充実に向けた新たな政策的対応の検討  
 ③市内医療機関が一体となった市外医療機関との連携・連携強化

基本方針 2：①医療従事者の労働環境改善  
 ②医療従事者のコミュニケーション改善  
 ③医療従事者の能力開発・育成機会の創出  
 ④医療従事者確保に向けた検討

基本方針 3：①市政の方針や人口ビジョンを踏まえた政策的対応の検討

基本方針 4：①地域包括ケアシステム構築に向けた医療分野の関与強化  
 ②住民目線に立った取組の強化

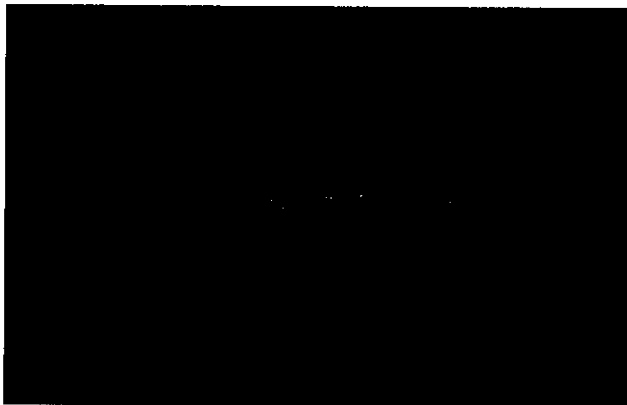
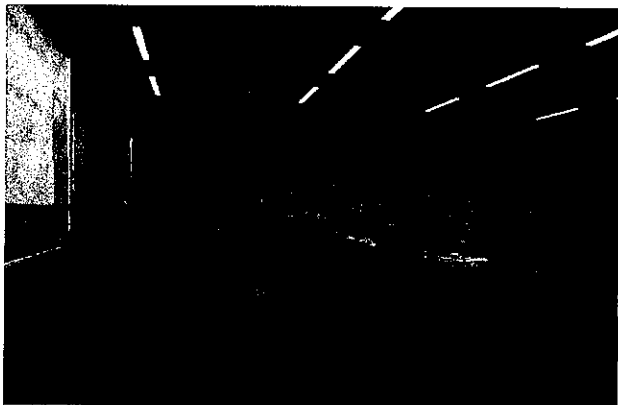


配布先

区分	名 称
高梁市医療機関	池田医院、大杉病院、尾島クリニック、桑内耳鼻咽喉科医院、たいよの丘ホスピタル、有漢診療所、川上診療所、成羽病院、備中診療所、高梁整形外科医院、高梁中央病院、仲田医院、西医院、野村医院、ふじかわ眼科高梁分院、藤本診療所、まつうらクリニック、三村医院、渡辺医院
吉備中央町（賀陽町） 医療機関	賀陽クリニック、木戸医院、吉備高原ルミエール病院 吉備高原医療リハビリテーションセンター
行政機関	備北保健所、高梁市、吉備中央町、高梁市消防本部

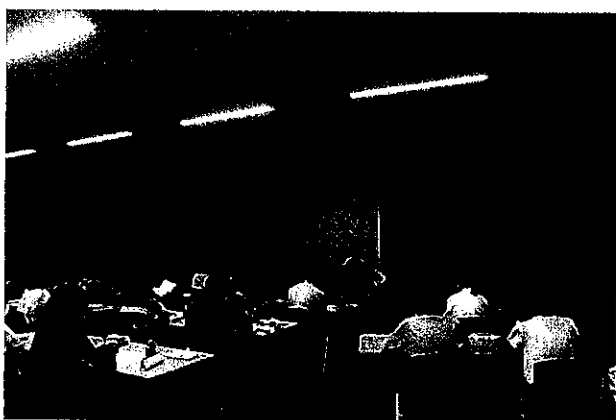
# 研修会

多職種連携研修会（ハイブリット開催）



摂食・嚥下研修会（対面開催）

皮膚・排泄ケア研修会（ハイブリット開催）



スキルアップ研修会（対面開催）



# 高梁市看護師等奨学金貸付状況について

年度	新規貸付者	当該年度就職者	貸付辞退者数	
			うち市内就職者	
H22年度	2			
H23年度	2			
H24年度	6			
H25年度	5	2	1	
H26年度	5	2	2	2
H27年度	1	8	5	1
H28年度	1	5	3	
H29年度	3			2
H30年度	5	2	2	
R元年度	5	1	1	
R2年度	2	1	1	1
R3年度	6(4)	5	4	
	43(4)	26	19	6

※令和3年度の数値は令和4年3月7日現在。

※( )は医療機関の貸付分。

- 貸付修了者32名のうち、19名(約59%)が市内で就職。  
(令和3年度は約80%が市内就職)
- 貸付者43名の所属学校： 順正高等看護福祉専門学校 20名  
吉備国際大学 12名  
その他 11名

## 令和3年度

- 市奨学金制度の利用は2名。医療機関の奨学金制度の利用は4名。  
(高梁中央病院2名、たいよの丘ホスピタル：1名、成羽病院：1名)

## 令和4年度

- 要望調査を実施し、9名の事前相談あり。

## 令和5年度以降

- 1名の事前相談あり。

(5月号)

高梁2025 “地域医療はまちづくり”<sup>⑩</sup>

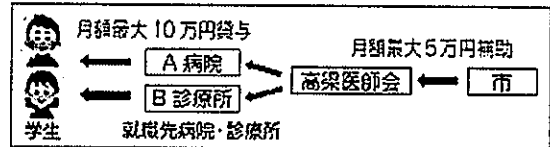
「高梁2025」は、持続可能な地域医療体制の構築に向けた取り組みの総称です。

医療従事者の人材確保に向けた取り組みについて

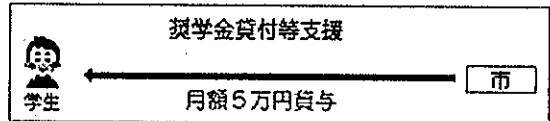
高梁市は、医療従事者の養成を図り、市内で働く医療従事者の確保・医療の質の向上を図るため、平成21年度から看護師などの奨学金制度、平成27年度から医学生の奨学金制度を実施してきました(令和3年3月末時点までに看護師など延べ37人、医学生延べ5人へ貸し付け)。また、現在も続く看護師不足・高齢化を考慮し、令和2年度に高梁市看護師等確保検討部会を立ち上げ、高梁看護師等奨学金事業について協議し、既存制度の拡充を行いました。市内の医療機関などに就職を希望する人は積極的に活用してください。

令和3年度からの制度の拡充・見直し点

- ①保健師および看護師を目指す学生で、すでに就職を希望する医療機関などが決まっている場合には、当該医療機関などの奨学金を「月額最大10万円まで」貸与可能。(手続きは病院を通して一元化)
- ②従来の看護師などの奨学金の貸与月額を「月額4万4000円⇒5万円」に増額。(年度の途中で就職先が決まった人は①への移行も可能です)



※現在奨学金制度を有する主な市内医療機関…大杉病院、たいようの丘ホスピタル、高梁中央病院、成羽病院



市ウェブサイト「高梁2025～地域医療の高梁モデル構築に向けた100の検討とアクション～」にこれまでの議論の内容などを掲載しています。



問介護医療連携課 ☎ 21-0304 / (一社)高梁医師会 ☎ 22-3801

(7月号)

高梁2025 “地域医療はまちづくり”<sup>⑪</sup>

「高梁2025」は、持続可能な地域医療体制の構築に向けた取り組みの総称です。

市内で働く地域枠医師について

岡山県は、岡山大学などの医学部に「地域枠」を設け、卒業後に県内で医師が不足している地域へ「地域枠医師」を派遣する制度を実施しています。派遣先となる医療機関は、県が教育指導体制や地域の受け入れ体制などを総合的に評価した上で、医師とのマッチングを行っています。高梁市内の医療機関にも定期的に地域枠医師が派遣されており、現在2人が在籍しています。

地域枠医師として働く遠藤福力さん(令和3年度新規派遣)

4月から、地域枠医師として高梁中央病院で勤務しています。私は岡山市出身で、岡山大学の医学部を卒業しました。医師を目指すに当たり、急性期に対応する大きな病院で手術を学ぶだけでなく、地域の病院で地域医療についても学びたいと考え、地域枠を希望しました。診察を通して市民の皆さんのお話を伺いながら、地域医療の現状を肌で感じ、貴重な経験をさせていただいております。一人一人に寄り添った医療を心掛けて勤務していきますので、よろしく願いいたします。



遠藤福力 医師

高梁市の医学生奨学金制度の令和3年度奨学生を募集しています。制度の利用を希望する人は、市ウェブサイトをご覧ください。介護医療連携課までお問い合わせください。



問介護医療連携課 ☎ 21-0304 / (一社)高梁医師会 ☎ 22-3801



(9月号)

## 高梁2025 “地域医療はまちづくり”<sup>⑩</sup>

「高梁2025」は、持続可能な地域医療体制の構築に向けた取り組みの総称です。

### 潜在看護師さんへ ～高梁市内で少しずつ働いてみませんか～

新型コロナウイルスの感染拡大により医療従事者の負担増加は深刻な状態となり、コロナ禍以前から看護師が不足・高齢化している高梁市においても同様の状況です。こうした中、資格を持ちながら現在は特定の組織に籍を置いていない「潜在看護師」の復職支援などが全国で行われています。岡山県でも、離職により最新の知識や看護技術に不安がある潜在看護師に対する復職支援の取り組みとして、県ナースセンターによる技術支援講習会を実施しています。

高梁市では、「高梁かんどねっと」で、市内医療機関などへ就職を希望する人への相談対応や県ナースセンターへの登録支援、スキルアップ研修会などを行っています。もう一度看護師として働きたいなどの希望をお持ちの方は、高梁かんどねっと(☎21-3801)へご相談ください。

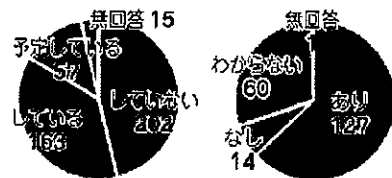


令和元年に行われた研修の様子

#### 離職した看護師の再就職の意向

県看護協会などが実施した調査では、県内で令和2年度に離職した人のうち、看護職として再就職したいという意思がある人は約6割。結婚・子育てなどで一度離職しながらも、看護職としてまた働きたいという意思がある人が多くいることがうかがえます。

再就職の有無 (437人中)      再就職の意思の有無 (202人中)



ウェブ/サイト「高梁2025～地域医療のまちづくり～」の「10」の検討とアクション」にてこれまでの議論の内容などを掲載しています。

圏介護医療連携課 ☎ 21-0304 / (一社)高梁医師会(高梁かんどねっと) ☎ 22-3801



(11月号)

## 高梁2025 “地域医療はまちづくり”<sup>⑩</sup>

「高梁2025」は、持続可能な地域医療体制の構築に向けた取り組みの総称です。

いい看護取り  
11月30日は「人生会議の日」

### もしものときのために「人生会議」始めてみませんか

誰でも、いつでも、命に関わる大きな病気やケガをする可能性があります

もしものときのために、あなたが望む医療やケアについて、事前に考え、繰り返し話し合い、共有する取り組みを「人生会議(ACP:アドバンス・ケア・プランニング)」と呼びます。この数年は、コロナ禍のため入院時の面会制限などもあり、最期の時間を自宅で過ごすことを選択する人が増えています。「人生会議」を行う時期に「早すぎる」はありません。「縁起でもない」と敬遠するのではなく、元気なうちから話し合ってみましょう。

#### 在宅医療を知っていますか

通院が難しくなったときや、退院後に自宅などでも医療を受けることができます。困ったときのために、前もってかかりつけの医師やケアマネジャーと相談し、さまざまな選択肢を見つけておきましょう。

#### 在宅で受けられる主な医療サービス

訪問診療、訪問歯科診療、訪問薬剤指導、訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問栄養食事指導など



訪問リハビリテーションの様子。在宅でもさまざまな医療サービスを受けることができます

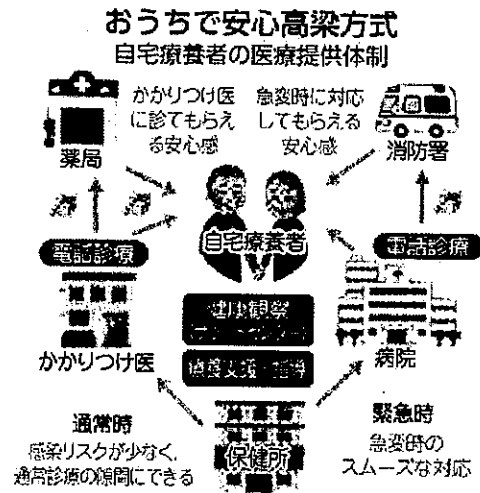
ウェブ/サイト「高梁2025～地域医療のまちづくり～」の「10」の検討とアクション」にてこれまでの議論の内容などを掲載しています。

圏介護医療連携課 ☎ 21-0304



# 高梁2025 “地域医療はまちづくり”<sup>⑭</sup>

「高梁2025」は、持続可能な地域医療モデルの構築に向けた取り組みの様態です。



自宅療養をする市内の新型コロナウイルス感染症患者在、在宅で安心して療養していただくための仕組みです。

**コロナ禍で安心できる自宅療養体制を整備**

新型コロナウイルス感染症の第5波流行時には、多くの人が自宅療養を余儀なくされました。市内の感染拡大の防止のため、高梁医師会では、ワクチン接種の協力をはじめ、日々の感染対策などご尽力されています。さらに、県内の郡市医師会の取組みとしては先駆けとなる、関係機関が一体となった自宅療養者に対する医療提供体制「おうちで安心高梁方式」を構築し、第6波の感染拡大に備えています。

**それぞれの役割**

**保健所**……在宅療養者の毎日の健康支援と生活支援、安否確認

**かかりつけ医**……保健所の依頼を受けて、電話診療を実施

**病院**……時間外・休日などにかかりつけ医、保健所からの情報を受け電話診療を実施

**薬局**……かかりつけ医からの要請により、電話での服薬指導、薬の処方を実施

**消防署**……緊急時に備え、症状悪化時の緊急搬送に対応

ウェブサイト「高梁2025～地域医療の豆蔵モデル構築に向けた100の挑戦とアクション～」にこれまでの議論の内容などを掲載しています。

岡介護医療連携課 ☎ 21-0304 / (一社)高梁医師会 ☎ 22-3801



# 高梁2025 “地域医療はまちづくり”<sup>⑮</sup>

「高梁2025」は、持続可能な地域医療モデルの構築に向けた取り組みの様態です。

## 地域の食形態を見える化へ

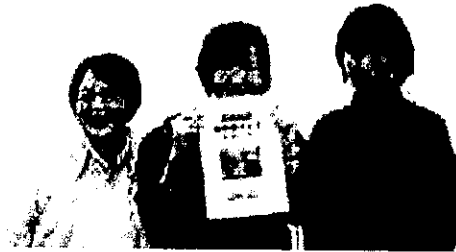
人と人との繋がりが高梁の食の未来を創造する

加齢や薬の副作用、病気の影響などによって、食べることや飲み込むことが困難になることがあります。安全に食事を楽しんでもらうためには、食べる能力に合った食形態を提供することが大切です。そのため、病院や高齢者施設では、それぞれ多様な形態での食事が提供されていますが、食事の硬さや大きさ、形態の呼称（なめらか食「ムース食」「ソフト食」など）が各施設によって異なる状態でした。

## 転院時などの食事の情報伝達をスムーズに

そこで岡山県栄養士会高梁支部は、地域の食形態の「見える化」を図るため、食形態の物性や特徴が各施設間で確認できるように「高梁地区食形態マップ」に「やんコード」を作成しました。市内の病院や高齢者施設での食形態の統一を図り、転院時などの食事の情報伝達をスムーズに行うことで、患者や利用者へ安心・安全な食事を提供することを目的としています。

○高梁地区食形態マップは市ウェブサイトでご覧になれます。



岡山県栄養士会高梁支部のメンバーと、実際に作成した高梁地区食形態マップ

ウェブサイト「高梁2025～地域医療の豆蔵モデル構築に向けた100の挑戦とアクション～」にこれまでの議論の内容などを掲載しています。

岡介護医療連携課 ☎ 21-0304



# 高梁2025 “地域医療はまちづくり”<sup>⑩</sup>

「高梁2025」は、持続可能な地域医療体制の構築に向けた取り組みの総称です。

かかりつけ医、いますか？

かかりつけ医とは

かかりつけ医は、「健康に関することを何でも相談でき、必要なときは専門の医療機関を紹介してくれる身近にいて頼りになる医師」です。病院や診療所の規模や、内科医などの特定の診療科目だけに限定するものではありません。



かかりつけ医を持つメリット

日頃の健康状態、生活背景、持病などを把握しているかかりつけ医を持つことで、①病気や症状、治療法についての確かな診断やアドバイスを受けることができ、②症状に応じて専門の医師・医療機関への紹介が可能になり、③病気の予防、早期発見・治療につなげることができまます。

また、かかりつけ医は地域包括ケアシステムの推進、新型コロナウイルス感染症への対応などの多くの場面で、地域で安心して医療を受けるためにかかりつけ医は重要な役割を担っています。

## 岡山県医師会認定かかりつけ医制度

岡山県医師会では、かかりつけ医のスキルの向上と標準化を目的として、生活習慣病や認知症、服薬管理などのさまざまな研修会を開催し、研修を受講した医師を「認定かかりつけ医」として認定しています。市内の病院や診療所の医師たちも認定を受け、地域医療を支えるかかりつけ医として活躍しています。

市ウェブサイト「高梁2025～地域医療の高梁モデル構築に向けた100の挑戦とアクション～」にこれまでの議会の内容などを掲載しています。



☎ 介護医療連携課 ☎ 21-0304

## 岡山県医師会 移動会長室

# 正しい薬の飲み方

～多剤、重複投与について～

令和4年

**2/1** (火)

14時00分～16時00分

参加方法

・会場参加：裏面の参加申込書で  
FAX送信

・Zoom参加：裏面のID・URL等  
でネット登録

×切

1月21日(金) 会場・Zoom共

対象者


服薬管理をする高齢者家族、  
在宅介護従事者、施設介護従事者等  
<定員(ハイブリッド開催)>


会場：30名 Zoom：50名


高梁市役所 3階大会議室  
(高梁市松原通2043)

※会場では、コロナ感染防止対策にご協力ください。

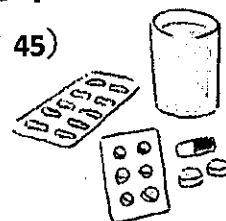
<<内容>>

 「新型コロナウイルス感染症と岡山県医師会活動」  
岡山県医師会 会長 松山 正春 (14:05～14:25)

 「介護保険制度における医療介護連携の必要性  
～かかりつけ医かかりつけ薬局からの情報の活用法～」  
岡山県介護支援専門員協会  
会長 堀部 徹 (14:25～14:45)

 「なぜ薬は増えるが減らないのか  
～カラクリを知り薬剤師を活用しよう～」  
岡山県薬剤師会 常務理事 寺井 竜平  
(14:45～15:45)

 質疑応答



主催：岡山県医師会  
共催：高梁市、岡山県薬剤師会、高梁医師会

知らないうちに、拡めちゃうから。



再放送 11ch

# キビケーブルテレビ録画放送 令和3年度

## 高梁市医療・介護市民公開講座×健康福祉のつとめ講演

市内の在宅医療、介護についての取組みや介護予防についての講演を録画放送します

### 再放送日

※11チャンネルは河川監視カメラの映像をみることができるチャンネルです

令和4年2月26日～3月26日の期間 北ケーブルテレビ11チャンネル  
毎週土曜日 午後8時00分～午後9時30分

### 内 容

#### 第1部：高梁市内医療機関の紹介

##### ◇「高梁市国民健康保険成羽病院の紹介

講師：成羽病院 紙谷晋吾 院長

##### ◇「新型コロナウイルス感染症に関する

##### 成羽病院の取組み：

講師：成羽病院 藤原洋平 内科医師



##### ◇「医療介護連携と人生会議(ACP)」

講師：成羽病院 鶴見尚和 副院長

#### 第2部：「健康寿命の延ばし方教えます！」

～高梁市におけるフレイルの現状と

予防のための運動紹介～

講師：吉備国際大学社会科学部スポーツ社会学科

山口英峰 教授、國佐 栞 準研究員



主催 高梁市在宅医療・介護連携推進協議会／高梁市  
共催 一般社団法人高梁医師会

問合せ先  
(高梁市役所)

介護医療連携課 Tel.21-0304  
健康づくり課 Tel.21-0267

令和3年度	
R3/4/1	高梁市看護師等奨学金事業（補助金）を新設
R3/4/21	市内2病院、医師会、市で県内看護師養成学校5校（県北）を訪問
R3/4/23	吉備国際大学看護学科4年生（40名）を対象に高梁市の医療の取組み説明
R3/4/27	市内2病院、医師会、市で県内看護師養成学校6校（県南）を訪問
R3/5/2	新成人対象者に対して、奨学金チラシを送付（約200部）
R3/5/15	広報紙5月号「奨学金制度」⑩
R3/5/24	令和3年度第1回高梁市医療計画検討委員会を開催
R3/6/30	市内病院の勤務10年程度の看護師を対象にリーダー研修会1回目を開催
R3/7/15	広報紙7月号「市内で働く地域枠医師について」⑪
R3/7/15	広報紙7月号で連携協定先のWEB体験教室の周知
R3/7/28	摂食・嚥下研修会を開催（約70名参加）
R3/8/30	令和3年度第1回高梁市医療機関連携推進部会を開催
R3/9/6～12	行政放送「AEDの設置について」⑬
R3/9/15	広報紙9月号「潜在看護師さんへ ～高梁市内ですこしずつ働いてみませんか～」⑫
R3/9/15	広報紙9月号で連携協定先への献体への協力を周知
R3/10/21	方谷学（Welcome方谷先生）として医療に関する講義を高梁高校で実施
R3/10/22	令和3年度第2回高梁市在宅医療・介護連携推進協議会を開催
R3/10/27, 11/1	高梁高校、城南高校、日新高校、井原高校、興議館高校、新見高校、共生高校へ看護師等奨学金PR
R3/10/28	皮膚・排泄研修会を開催（約60名参加）
R3/11/8	晴れやかネット ケアキャビネット説明会を開催（20名参加）
R3/11/15	広報紙11月号「11月30日は良い看取り・看取られの日」⑬
R3/11/15	令和3年度第2回高梁市医療機関連携推進部会を開催
R3/11/25	方谷学として医療に関する講義を高梁高校で実施（介護医療連携課職員）
R3/12/7	市内病院の勤務10年程度の看護師を対象にリーダー研修会2回目を開催
R3/12/18	令和3年度第1回多職種連携研修会（栄養士会）を開催（約80名参加）
R3/1/9	新成人対象者に対して、奨学金チラシを送付（約200部）
R4/1/15	広報紙1月号「コロナ禍で安心できる自宅療養体制を整備」⑭
R4/2/1	岡山県医師会主催の「正しい薬の飲み方」講演会をハイブリットで開催（約50名参加）
R4/2/9	連携協定先の産学官WEBイベント（KMSメディカル・アーク2022）に出展
R4/2/14	川崎学園理事長と市長、教育長の意見交換会（川崎学園）
R4/2/14	令和3年度第3回高梁市医療機関連携推進部会を開催
R4/2/15	広報紙2月号「地域の食形態に見える化へ！」⑮
R4/2/19	令和3年度高梁市医療・介護市民公開講座×健康福祉のつどいを放送（成羽病院の紹介）
R4/3/7	令和3年度第2回高梁市医療計画検討委員会を開催



8	9	10	11	12	13	14	15
診療料の充実要項の優先順位付け	設備の共有・共同購入	連携体制構築を充実させるための検討 医療現場のスタッフの理解深化	病床数の検討	特に手当てを要する地域	特に手当てを要する診療科	政策的に推進されているテーマの把握	技術動向や導入事例の調査
市内で充実してほしい診療科については、高松市医療計画では、産婦人科系が上位であるが、全国的な傾向で、日本産婦人科学会の同産期医療センターへの集約化の方針も示されている。分娩施設の設定には、医師1人、助産師1人、看護師6人を集めることが最低条件になる。また市内では産科に限らず他の診療科でも医療従事者の確保には課題となっている。	同一業者からの医療材料の購入できる状況になっているが、実際の共有・共同購入までには至っていない。成羽病院の院内薬局で、高松中央病院、大杉病院の災害用の医薬品を保管している。	各医療機関で医療計画検討委員会等での検討内容の共有を行うこととしている	令和元年度と令和2年度で2つの医療機関で介護医療院への転換が行われ、療養病床数は116床の減となり、高松市内での一般・療養病床数は309床となった。平成30年度の医療計画策定時の42.5床と比較して、27%の減となっている。新型コロナウイルス対応として、感染症病床への整備も2つの医療機関で行われている。	医療計画策定以降に、地域を限定した形での公的支援については、現状は実施していない。	令和2年度に感染症対応する病床整備を実施する医療機関への補助事業、令和3年度に地域医療提供体制の維持・継続を図りつつ、新型コロナウイルス感染症の拡大防止・収束に向けて、最前線で業務に従事する市内医師会、医療機関、医療従事者等への協力金事業を実施した。	遠隔診療（オンライン診療）については、徳島県、ハキ市の運用に際しては、国家戦略特区として指定を受けた養父市において、テレビ電話を活用したオンライン診療、オンライン服薬指導の特別を活用して実施された。令和2年度より、情報通信機器を用いたオンライン診療やオンライン服薬指導等が新型コロナウイルス感染症の感染拡大による時間的・人的な取扱いとして認められた。国において、令和4年度以降の制度の恒久化に向けて、指針が改定された。市内の医療機関においては、オンライン診療に関するWEB研修を受講している。	国家戦略特区として先進的な取り組みをしている自治体（兵庫県養父市）での取り組み事例の調査を行った。市内医療機関において、オンライン診療用のアプリの導入や、オンライン診療に関するWEB研修を受講している。
診療料の充実については、産科・社会福祉・将来人口や出生数等を踏まえ、検討していく。医療従事者の確保を自覚している。	県内の地域医療連携推進法人での取り組み状況について研究する。	引き続き各医療機関で医療計画検討委員会等での検討内容について、各医療機関の医療従事者に対して、情報の共有を行う。	地域医療連携調整会議での検討状況について、注視していく	今後の公的支援については、地域の状況や社会情勢を踏まえ必要な支援を検討していく。	新型コロナウイルス感染症に対する支援を含めた今後の公的支援については、市内内外の感染状況や社会情勢を踏まえ、必要な支援を検討していく。	国の指針の内容を踏まえ、本市で取組みの可能性について検討する。（オンライン診療に対する市民への広報、試験事業実施の可能性）	市内外で先進的に導入、取り組みを進めている病院での実施時の課題や好事例について共有していく。
					重点		重点



通算 16	基本方針	取組みの方向性	施策	試験事業の検討	考えられる検討事項	取組内容等	重点事項	評価	今後の取組み 国の指針の内容を踏まえ、本市で取組みの 可能性について検討する。 (オンライン診療に対する市民への広報、 試験事業実施の可能性)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)
16												
17		1-3 市内医療機関 が一体となつ た市外医療機 関との連携バ ス構築	1-3-1 市内医療機関で連携して、市外 医療機関との委託協定の締結等 の連携強化に向けた検討を進め ます。	高度急性期医療 を担う市外の中 核病院との連携	市内高齢者が多く入院している市外3病院(岡山大学病院、倉敷 中央病院、川崎学園)と令和2年度に連携協定を締結した。倉敷 協定の運用事項として、同産期医療体制の確立に関する事項、円 滑な入院に関する事項を設定している。	市内高齢者が多く入院している市外3病院(岡山大学病院、倉敷 中央病院、川崎学園)と令和2年度に連携協定を締結した。倉敷 協定の運用事項として、同産期医療体制の確立に関する事項、円 滑な入院に関する事項を設定している。	重点	協定先を求める事務レベルの連携の具体案 を作成し、各協定先の事務局と調整を行 う。	○			
18				市外の特設可能 施設との連携	市内高齢者が多く入院している市外3病院(岡山大学病院、倉敷 中央病院、川崎学園)と令和2年度に連携協定を締結した。倉敷 協定の運用事項として、同産期医療体制の確立に関する事項、円 滑な入院に関する事項を設定している。							
19				市内医療機関か ら市外医療機関 へ患者を紹介す る仕組み	市内高齢者が多く入院している市外3病院(岡山大学病院、倉敷 中央病院、川崎学園)と令和2年度に連携協定を締結した。倉敷 協定の運用事項として、同産期医療体制の確立に関する事項、円 滑な入院に関する事項を設定している。							
20				市外医療機関で 入院した後、市 内医療機関へ向 けた連携	市内高齢者が多く入院している市外3病院(岡山大学病院、倉敷 中央病院、川崎学園)と令和2年度に連携協定を締結した。倉敷 協定の運用事項として、同産期医療体制の確立に関する事項、円 滑な入院に関する事項を設定している。							
21	2 医療従事者 が誇りを掛け 持つ体制を 持つ、持病可 能な地域医 療	2-1 医療従事者の 労働環境改善	2-1-1 医療従事者の働き方改革に向け て、市内医療機関が連携して検 討を進めます。	組織横断的な人 事異動、人事配 置のあり方	組織横断的な人事異動については、別法人であることから実施の ハードルは高く未実施となっている。 個別事例としては、医療機関連携推進部会での情報共有の中で面 議のニーズがマッチしたことから、診療所から病院への市内医療 機関間の医療従事者の異動が成立した。	別法人での人事異動についてはハードルが 高いため、医療従事者の派遣について、地 域医療連携推進法人での先進的な取り組み を研究する。						
22				業務の効率化	患者とのコミュニ ケーションを確 保するようにつ づいて業務改善	市内病院の看護師を対象とし、看護師等の労働環境改善に関する アンケート調査の結果を各病院毎にとりまとめ、高松かんこねつ とで結果の共有を行った。	重点	働き方改革に資する取り組み状況について、 定期的にフォローアップし、各病院な ごとの取り組み状況や好事例を共有、横展 開を図っていく。			○	
23				医師や看護師を中 心とした業務量 の削減を図るた めの役割分担の見 直し	医師や看護師を中 心とした業務量 の削減を図るた めの役割分担の見 直し	市内病院の看護師を対象とし、看護師等の労働環境改善に関する アンケート調査の結果を各病院毎にとりまとめ、高松かんこねつ とで結果の共有を行った。						
24				労働時間の改善	24時間対応の緩和 に向けた施設間連 携	訪問看護S.Tの稼働機会を年4回開催している。 各施設の空き状況をケアキャストネットワークを利用して共有している。						





年度	取組の方向性	取組内容	重点事項	評価	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)
42	市外の医療従事者養成学校の学生に市内医療機関でPR	言語国際大学と連携し、大学生を対象として「看護の魅力ガイダンス」や、小中学生を対象として「医療現場体験事業」を実施し、市内の幅広い学生に地域医療に関する取組を紹介している。市内4病院と連携し、看護師専攻のCMや地域医療の動画を制作し、医師会ウェブサイトに掲載している。また、市内内外の医療従事者養成学校を訪問しての病院紹介や市の奨学生等を対象とした病院見学会を実施している。		-			
43	本市で働くことのできるPR	本市で働いている優れた医療従事者のPR	看護国際大学と連携し、大学生を対象として「看護の魅力ガイダンス」や、小中学生を対象として「医療現場体験事業」を実施し、市内の幅広い学生に地域医療に関する取組を紹介している。市内4病院と連携し、看護師専攻のCMや地域医療の動画を制作し、医師会ウェブサイトに掲載している。また、市内内外の医療従事者養成学校を訪問しての病院紹介や市の奨学生等を対象とした病院見学会を実施している。				
44	高菜で実現できるキャリアプランの明確化	高菜で実現できるキャリアプランの明確化	高校生に対して方谷学を通じて、市内の医療機関で働く医療従事者からの講義を行っている。				
45	市内医療機関を知る機会の増加	研修受入れの増加	順正高等看護専門学校では、令和元年度から成羽病院に加え、高菜中央病院、大杉病院でも実習に参加している。令和2年度からは、新型コロナウイルス感染症拡大もあり、病院によって実習受入れが難しくなっている。	△			
46	奨学金制度の普及・改善		市の看護師奨学金制度については、返還猶予の規程の見直しを行った。市内医療機関が実施する奨学金制度への補助事業を新たに策定し、奨学金制度の拡充、見直しを行った。				
47	2-4-2 市内医療機関における研修の質を向上させ採用に結びつくことを目指して、市内医療機関と教育機関が連携して検討を進めます。	本市で働くことのできるPR(再掲)	市内4病院と連携し、看護師専攻のCMや地域医療の動画を制作し、医師会ウェブサイトに掲載している。また、市内内外の医療従事者養成学校を訪問しての病院紹介や市の奨学生等を対象とした病院見学会を実施している。	重点			○
48		高菜で実現できるキャリアプランの明確化	高校生に対して方谷学を通じて、市内の医療機関で働く医療従事者からの講義を行っている。				
49	市内医療機関を知る機会の増加(再掲)	研修受入れの増加	順正高等看護専門学校では、令和元年度から成羽病院に加え、高菜中央病院、大杉病院でも実習に参加している。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大もあり、実習受入れが難しくなっている。	△			
50	奨学金制度の普及・改善(再掲)		市の看護師奨学金制度については、返還猶予の規程の見直しを行った。市内医療機関が実施する奨学金制度への補助事業を新たに策定し、奨学金制度の拡充、見直しを行った。				
51	研修内容の検討		市内4病院との研修制度を把握するため、看護師確保に関するアンケート調査を実施している。また、市内内外の医療従事者を踏まえて、高菜かんごねっでは、市内医療機関を対象とした看護師のリーダー養成研修のほか、フィジカルセラピスト研修などさまざまな研修プログラム研修を含め研修会を年に10回以上開催している(令和元年度より市の委託事業として実施)。	重点			○

年度	基本方針	取組みの方向性	施策	取組まれる検討事項	取組内容等	重点事項	評価	今後の取組み	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)
52			研修受入れ先の職場環境改善		市内病院の看護師を対象とし、看護師等の労働環境改善に関するアンケート調査の結果を各病院毎にとりまとめ、高松かんどねつとで結果の共有を行った。		-	アンケートの結果を踏まえた取り組み状況について、各病院などでの取り組み状況や好事例を共有していく。 特に心身とも不安を抱えやすい新採用職員を対象としたフォローアップ研修を検討する。			
53		2-4-3 産科看護師をはじめとした産科看護者の把握、復帰支援について、市内医療機関、教育機関と連携して検討を進めます。	産科看護師の把握に向けた、地域で一体となったシステム構築		医療機関が実施する奨学金制度への補助事業を新たに策定し、市内医療機関での異動が可能な奨学金制度の拡充、見直しを行った。 復帰支援の取組みについては、県の看護協会において再教育などの取組みが実施されている。		-	潜在看護師を対象とした、看護協会等で実施している復帰支援の取組みなどを含む中で、市内病院だけでなく、その他の対象者（学生等の保護者、移住者）などへの制度の周知を検討する。			
54			産科看護師へのPR		高松かんどねつつで潜在看護師確保に向け、ポスターを作成し市内医療機関へ掲示している。	重点	-	看護協会等で実施している復帰支援の取組みなどを含む中で、市内病院だけでなく、その他の対象者（学生等の保護者、移住者）などへの制度の周知を検討する。			
55			労働時間の改善（再掲）	24時間対応の認知症対応施設間連携	訪問看護S-Tの情報交換会を年4回開催している。 各施設の空き状況をケアキャビネットを利用し共有している。		-	施設によってケアキャビネットへの入力状況に差があるため、施設に対して入力促進に向けた取組を進めていく。			
56			その他の復帰支援の取組みの検討		医療機関が実施する奨学金制度への補助事業を新たに策定し、市内医療機関での異動が可能な奨学金制度の拡充、見直しを行った。 復帰支援の取組みについては、県の看護協会において再教育などの取組みが実施されている。		-	潜在看護師を対象とした、看護協会等で実施している復帰支援の取組みなどを含む中で、市内病院だけでなく、その他の対象者（学生等の保護者、移住者）などへの制度の周知を検討する。			
57		3-1 3-1-1 3-1-1-1 3-1-1-2 3-1-1-3 3-1-1-4 3-1-1-5 3-1-1-6 3-1-1-7 3-1-1-8 3-1-1-9 3-1-1-10 3-1-1-11 3-1-1-12 3-1-1-13 3-1-1-14 3-1-1-15 3-1-1-16 3-1-1-17 3-1-1-18 3-1-1-19 3-1-1-20 3-1-1-21 3-1-1-22 3-1-1-23 3-1-1-24 3-1-1-25 3-1-1-26 3-1-1-27 3-1-1-28 3-1-1-29 3-1-1-30 3-1-1-31 3-1-1-32 3-1-1-33 3-1-1-34 3-1-1-35 3-1-1-36 3-1-1-37 3-1-1-38 3-1-1-39 3-1-1-40 3-1-1-41 3-1-1-42 3-1-1-43 3-1-1-44 3-1-1-45 3-1-1-46 3-1-1-47 3-1-1-48 3-1-1-49 3-1-1-50 3-1-1-51 3-1-1-52 3-1-1-53 3-1-1-54 3-1-1-55 3-1-1-56 3-1-1-57 3-1-1-58 3-1-1-59 3-1-1-60 3-1-1-61 3-1-1-62 3-1-1-63 3-1-1-64 3-1-1-65 3-1-1-66 3-1-1-67 3-1-1-68 3-1-1-69 3-1-1-70 3-1-1-71 3-1-1-72 3-1-1-73 3-1-1-74 3-1-1-75 3-1-1-76 3-1-1-77 3-1-1-78 3-1-1-79 3-1-1-80 3-1-1-81 3-1-1-82 3-1-1-83 3-1-1-84 3-1-1-85 3-1-1-86 3-1-1-87 3-1-1-88 3-1-1-89 3-1-1-90 3-1-1-91 3-1-1-92 3-1-1-93 3-1-1-94 3-1-1-95 3-1-1-96 3-1-1-97 3-1-1-98 3-1-1-99 3-1-1-100	3-1 3-1-1 3-1-1-1 3-1-1-2 3-1-1-3 3-1-1-4 3-1-1-5 3-1-1-6 3-1-1-7 3-1-1-8 3-1-1-9 3-1-1-10 3-1-1-11 3-1-1-12 3-1-1-13 3-1-1-14 3-1-1-15 3-1-1-16 3-1-1-17 3-1-1-18 3-1-1-19 3-1-1-20 3-1-1-21 3-1-1-22 3-1-1-23 3-1-1-24 3-1-1-25 3-1-1-26 3-1-1-27 3-1-1-28 3-1-1-29 3-1-1-30 3-1-1-31 3-1-1-32 3-1-1-33 3-1-1-34 3-1-1-35 3-1-1-36 3-1-1-37 3-1-1-38 3-1-1-39 3-1-1-40 3-1-1-41 3-1-1-42 3-1-1-43 3-1-1-44 3-1-1-45 3-1-1-46 3-1-1-47 3-1-1-48 3-1-1-49 3-1-1-50 3-1-1-51 3-1-1-52 3-1-1-53 3-1-1-54 3-1-1-55 3-1-1-56 3-1-1-57 3-1-1-58 3-1-1-59 3-1-1-60 3-1-1-61 3-1-1-62 3-1-1-63 3-1-1-64 3-1-1-65 3-1-1-66 3-1-1-67 3-1-1-68 3-1-1-69 3-1-1-70 3-1-1-71 3-1-1-72 3-1-1-73 3-1-1-74 3-1-1-75 3-1-1-76 3-1-1-77 3-1-1-78 3-1-1-79 3-1-1-80 3-1-1-81 3-1-1-82 3-1-1-83 3-1-1-84 3-1-1-85 3-1-1-86 3-1-1-87 3-1-1-88 3-1-1-89 3-1-1-90 3-1-1-91 3-1-1-92 3-1-1-93 3-1-1-94 3-1-1-95 3-1-1-96 3-1-1-97 3-1-1-98 3-1-1-99 3-1-1-100	市内での分娩施設設置は、人材確保等の面から困難な状況ですが、妊産婦健診等の周産期医療は市内クリニックで提供されている。 市内での分娩施設設置は、人材確保等の面から困難な状況ですが、妊産婦健診等の周産期医療は市内クリニックで提供されている。	○	市内クリニックで提供される周産期医療と市の妊産婦、乳幼児のサポート事業により、現在の妊娠から子育てまでのサポート体制を継続していく。					
58			周産期医療を担う人材の育成・確保	助産師の育成・確保	高松市看護師等養成奨学金では、助産師も対象としているが、現状は希望者はいない。		○	現行の制度を維持しながら、助産師を含めた医療従事者の確保に努めていく。			
59			産科医療確保に向けた検討	産科医療確保に向けた検討	医師確保にあたり、県の助産師制度のほかに、市内の医学士奨学金制度を設けており、現状2名が産科研修、3名が大学で検定中となっている。令和3年度では、新規の貸付希望者はいない。		-	医師の確保に向けて、継続した助産師卒業生の確保に向けた要請を行っている。 市の奨学金制度については、現状の5名の市内医療機関の就業に向けたフォローアップを行っている。			
60			産科医療確保に向けた検討	産科医療確保に向けた検討	現状は市内で周産期医療を行う医療機関は一つであるため、周産期医療を担う人材の確保に向けた取組は検討していない。		-	周産期医療を担う人材だけでなく、別法人での出身、派遣等についてはハードルが高いため、医療従事者の派遣について、地域医療連携推進法人での先進的な取り組みを研究する。			



実施年度	実施分野	取組内容等	取組内容等	重点事項	評価	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)
70	医療制が介護・福祉分野に求められることの検討	医療制が介護・福祉分野に求められることの検討	高松市在宅医療・介護連携推進協議会では、年に2回程度、在宅医療に関係する専門職種が職種別に研修を企画・実施している。					
71	教育機関が医療機関と連携して行う取組の検証	専門学科の学生に医療現場の職種体験など医療機関や市と連携した取組を実施している。	市備国際大等では、介護予防事業、市内の小中学生を対象とした医療現場の職種体験など医療機関や市と連携した取組を実施している。					
72	やまぼうしの活用	診療情報の共有システムの構築	令和2年12月末現在で273名の方が登録されています。加入事業所は70事業所、25台のiPadを無償で貸出している。令和2年度には操作説明会等を2回開催し、計75名参加があった。					
73	遠隔時カンファレンスへの参加種類の拡大	ウェアラブル端末などでWEBC会議ができる環境が整備されてきていることから、対面でも参加することが可能となっており、WEBC会議を活用した事例も一部でできてきている。						
74	職連間での交流(再)機会の増加(再)機	在宅医療・介護連携推進協議会	市内の医師会などの職能団体や教育機関の代表者、行政関係者で構成される協議会を定期的に開催しており、協議会において、年に2回程度多職種連携研修会を開催している。高松かんのこねつでは、看護師のリーダー育成研修のほか、フィジカルアセスメント研修などスキルアップ研修を含め研修会を年に10回以上開催している(令和元年度より市の委託事業として実施)。	重点				
75		多職種連携研修会	市内の医師会などの職能団体や教育機関の代表者、行政関係者で構成される協議会を定期的に開催しており、協議会において、年に2回程度多職種連携研修会を開催している。高松かんのこねつでは、看護師のリーダー育成研修のほか、フィジカルアセスメント研修などスキルアップ研修を含め研修会を年に10回以上開催している(令和元年度より市の委託事業として実施)。					
76		市内医療機関で合同の研修会	市内の医師会などの職能団体や教育機関の代表者、行政関係者で構成される協議会を定期的に開催しており、協議会において、年に2回程度多職種連携研修会を開催している。高松かんのこねつでは、看護師のリーダー育成研修のほか、フィジカルアセスメント研修などスキルアップ研修を含め研修会を年に10回以上開催している(令和元年度より市の委託事業として実施)。					
77	情報共有のルール整備(再)機	入退院における支援ルール	多職種が連携し、スムーズな入退院支援を行うことを目的に市内の入退院支援ルールを作成している。その中で、病歴、在室担当者が円滑に患者さんの情報を共有し、コミュニケーションが図れる高度救急情報共有書を作成しており、定期的に改定・見直しを行っているから活用している。					
78	4-1-2 介護分野・交通分野と連携し、医療機関利用者の利便性向上に向けた通院支援や交通施策を検討します。	通院手段の充実	第2次高松市地域公共交通形成計画(令和2年3月策定)策定にあたっては、通院に関して、市民の皆さんや市内医療機関等から現状や課題についてヒアリングを行った。利用促進事業として、医療機関への通院手段の確保について検討することとしている。生中福祉バスや集合タクシーの活用					

通番	基本方針	取組の方向性	施策	実施される検討事項	取組内容等	取組内容等	重点事項	評価	今後の取組み	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)
79					市内の病院の地域連携室において、通院・入退院患者の交通の相談を受け、バスの時刻や乗合タクシーの予約等の支援を行っている。			○	継続して通院・入退院患者の交通の相談を受け、バスの時刻や乗合タクシーの予約等の支援を行う。			
80	4 地域での自立した生活に寄り添う基盤の整備	4-1 地域包括ケアシステム構築に向けて、市内医療機関等が連携分野の関与強化	4-1-3 在宅医療を担う人員等の拡充に向けて、市内医療機関等が連携して検討します。	生活支援	高梁市社会福祉協議会や市では、高齢者福祉事業の概要を取りまとめている。	市内の病院の地域連携室において、通院・入退院患者の交通の相談を受け、バスの時刻や乗合タクシーの予約等の支援を行っている。		-	在宅医療、入院中に特化した事業についてとりまごめを行う。			
81				入院中の生活支援	高梁市社会福祉協議会や市では、高齢者福祉事業の概要を取りまとめている。			-	在宅医療、入院中に特化した事業についてとりまごめを行う。			
82				救急サポート体制の充実	独居の高齢者を対象に平成22年度から救急医療情報キットを配布している。 これまでに延べ5,924名（令和4年1月末）に配付している。 市内の民間企業も含めたAEDの設置場所（市内175箇所）を市のウェブサイト掲載、行政放送などで周知を行っている。			○	継続した救急キットの配付を行うとともに、情報更新について呼びかける。また、AEDの設置場所の更新を行っていく。介護施設から医療機関への外来受診時「救急・時間外受診連絡表」を作成する。			
83				家族へのサポート体制の充実	市内の民間病院ではレスパイト入院の受入を行っている。			○	新型コロナウイルスの状況や市内医療機関の受入状況にあわせてレスパイト入院の受入について引き続き行っていく。			
84				医療従事者の確保	市独自で医学生奨学金制度を設けているが、在宅医に特化してはいない。			-	医師の確保に向けて、継続した地域卒業医師の派遣に向けた要望を行っていく。市の奨学金制度については、現状の5名の市内医療機関の就業に向けたアプローチャを行っていく。			
85				訪問看護師の確保	市の看護師奨学金制度については、市内医療機関が連年奨学金制度への補助事業を新たに策定し、奨学金制度の拡充、見直しを行っているが、訪問看護師に特化してはいない。			○	現行の奨学金制度を維持しながら、看護師等の確保に努めていく。			
86				医療従事者等の役割の見直し	高梁市在宅医療・介護連携推進協議会では、年に2回程度、在宅医療に関係する専門職種が職種別に研修を企画・実施している。			○	研修内容について、需要にあわせて充実・見直しを行いながら、組織横断的な研修会を定期的に開催していく。			
87				看護師に求められる役割の変化（医療と介護の連携に寄り添うべき役割）についての検討	多職種連携研修会において、令和元年度に、患者の意思決定を引継ぐコミュニケーションスキル（参加者71名）、令和2年度に、小規模多機能型居宅介護等の種類や特徴について研修を行った（リモート開催：参加者86名）。			○	研修内容について、需要にあわせて充実・見直しを行いながら、組織横断的な研修会を定期的に開催していく。			



年度	実施方針・取組みの方向性	施策	考えられる効果事項	取組内容等	重点事項	評価	今後の取組み	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)
88				在宅医療の推進多 職種をコア メンバーとして 配置、役割、権限 などの検討	川上診療所では在宅医療コアメンバーを配置し多職種連携を強化されている。 高梁医師会では高梁かんどねつが設置され、医療介護連携コアメンバーが配置されており、市内医療機関、介護施設を対象とする研修が実施されている。		医療介護連携コアメンバーを中心とした研修会の取組みを継続していく。			
89				プライマリ・ケア の集積、患者本人 の意思決定ができ なくならないよう 患者・家族と医療従 事者が治療・療養 の方針を話し合 う、ACPへの取 組み、在宅看取り への対応等の検討	多職種連携研修会において、令和元年度にACPの正しい理解と 支援者としての関わり方についての研修を行った(参加者69 名)。 原医師会主催のACP研修会を講師に岡山大学松岡剛治先生をお 迎えし開催した(参加者57名)。	重点	高梁市版ACPツールを作成、活用し、研修 会等でACPの普及啓発を図っていく。			
90				在宅医療の市内 医療機関が取り 組むインセン ティブ 市内医療機関が 効果的に取り組 むための方策	令和2年度より、情報通信機器等を用いたオンライン診療やオン ライン服薬指導等が新型コロナウイルス感染症の感染拡大による 時間的・特約的な取り扱いとして認められており、国において は、令和4年度以降の制度の恒久化に向けて、指針が改定され た。 遠隔診療(オンライン診療)については、在宅医療を効果的に取 り組むための一つの手段と考えられる。 高梁医師会では、オンライン診療に対応した電話診療システムを 導入している。		国の指針の内容を踏まえただうえで、医療機 関が効果的に取り組むための方策(オンラ イン診療などの活用可能性)について検討 する。			
91	4-2 住民目線に 立った説明の 強化	4-2-1 住民が不安・不満を感じている ポイントを踏まえて、市内医療 機関の実態、考え方や等について のわかりやすい説明・訴求を強 化します。		本市の優れた医療 従事者のPR	高梁市医療・介護市民公開講座を開催し、在宅医療や市内で可能 な医療を周知している。 第1部では、在宅医療の普及啓発として、在宅医療を支える職種 による事例 第2部では、市内の病院紹介として、病院で対応可能な医療につ いて病院スタッフが紹介。(平成30年度：高梁中央病院、令和 元年度：大杉病院、令和2年度：たいようの丘H.P)		広報紙で医療計画に関するこれまでの取組 みについての特集を組み、市民に向けて広 報を行う。			
92				市内医療機関で対 応可能な疾患のPR	高梁医師会で看護師募集のCMを作成しH.P等に掲載している。 高梁市医療・介護市民公開講座を開催し、在宅医療や市内で可能 な医療を周知している。 第1部では、在宅医療の普及啓発として、在宅医療を支える職種 による事例 第2部では、市内の病院紹介として、病院で対応可能な医療につ いて病院スタッフが紹介。(平成30年度：高梁中央病院、令和 元年度：大杉病院、令和2年度：たいようの丘H.P)		広報紙で医療計画に関するこれまでの取組 みについての特集を組み、市民に向けて広 報を行う。			
93				受療のあり方	高梁市医療・介護市民公開講座を開催し、在宅医療や市内で可能 な医療を周知している。 第1部では、在宅医療の普及啓発として、在宅医療を支える職種 による事例 第2部では、市内の病院紹介として、病院で対応可能な医療につ いて病院スタッフが紹介。(平成30年度：高梁中央病院、令和 元年度：大杉病院、令和2年度：たいようの丘H.P)		広報紙で医療計画に関するこれまでの取組 みについての特集を組み、市民に向けて広 報を行う。			
94				かかりつけ医の定 着	高梁市医療・介護市民公開講座を開催し、在宅医療や市内で可能 な医療を周知している。 第1部では、在宅医療の普及啓発として、在宅医療を支える職種 による事例 第2部では、市内の病院紹介として、病院で対応可能な医療につ いて病院スタッフが紹介。(平成30年度：高梁中央病院、令和 元年度：大杉病院、令和2年度：たいようの丘H.P)		広報紙で医療計画に関するこれまでの取組 みについての特集を組み、市民に向けて広 報を行う。			

項目	基本方針	取組みの方向性	施策	考えられる効果・課題	取組内容等	重点事項	評価	今後の取組み	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)
95				在宅医療の普及・啓発	高梁市医療・介護市民公開講座を開催し、在宅医療や市内で可能な医療を周知している。 第1部では、在宅医療の普及啓発として、在宅医療を支える職種による寸劇 第2部では、市内の病院紹介として、病院で対応可能な医療について病院スタッフが紹介。(平成30年度：高梁中央病院、令和元年度：大杉病院、令和2年度：たいようの丘HP)		-	広報紙で啓発計画に関するこれまでの取組みについての特集を組み、市民に向けて広報を行う。			
96				人生の最終段階における介護生活の過ごし方や医療的なことについて、家族や医師等と話し合うことの重要性	令和元年11月16日に看取りでの経験を語る会～人生の最終段階の過ごし方と在宅医療を考える～と題し、講演会を開催しました。(参加者200名)		-	高梁市版ACPツールを作成、活用し、研修会等でACPの普及啓発を図っていく。			
97				市内医療機関の担う役割	高梁市医療・介護市民公開講座を開催し、在宅医療や市内で可能な医療を周知している。 第1部では、在宅医療の普及啓発として、在宅医療を支える職種による寸劇 第2部では、市内の病院紹介として、病院で対応可能な医療について病院スタッフが紹介。(平成30年度：高梁中央病院、令和元年度：大杉病院、令和2年度：たいようの丘HP)		-	広報紙で啓発計画に関するこれまでの取組みについての特集を組み、市民に向けて広報を行う。			
98				病院主治医と在宅医療の二人主治医制の検討	(一社)高梁医師会において、訪問診療医師の会が立ち上がり、訪問診療を始め、二人主治医制等の話し合いが行われている。		△	医療機関間、多職種でリアルタイムに情報共有できるケアキヤンネットの利用者数の向上を図る。			
99				医師が住民と直接対話する場の拡大・展開	高梁市医療・介護市民公開講座を開催し、在宅医療や市内で可能な医療を周知している。 第1部では、在宅医療の普及啓発として、在宅医療を支える職種による寸劇 第2部では、市内の病院紹介として、病院で対応可能な医療について病院スタッフが紹介。(平成30年度：高梁中央病院、令和元年度：大杉病院、令和2年度：たいようの丘HP)		○	新型コロナウイルス感染症の拡大状況等を含みながら、ソーシャルテレビ等を活用し、市民参加型の場を設けていく。			
100				市や一般社団法人高梁医師会のホームページの活用	高梁市ウェブサイトで「高梁2025～地域医療の高梁モデル構築に向けた100の検討とアクション～」として、毎年度未だの成果を公表している。 広報計画を策定し、市広報紙や行政放送において、定期的に継続的に市内の医療について情報発信を実施している。 高梁医師会において、DVD「高梁の医療」を制作した。	重点	○	広報紙で啓発計画に関するこれまでの取組みについての特集を市長に向けて広報を行う。			○